

秘境・奈良田の宝探しマップ



秘境・奈良田とは

早川町最北の集落、奈良田。

山に囲まれ他と隔絶した地勢、孝謙天皇にまつわる伝説、焼畑文化や伝わる民俗風習などから、「秘境」と呼ばれてきました。

詩人・田中冬二も、奈良田に魅せられた一人で、「山郷」「奈良田のほととぎす」などの作品に、当時の様子を記しています。(裏地図E)

西山ダム建設により、昭和35年、集落は高台へ移転し、今は昔の姿を見ることはできません。それでも集落を歩き、様々な手がかりを集めれば、当時の村や人々の姿が目に見えてきます。

さあ、このマップを片手に、奈良田の宝探しに出かけましょう。

奈良の都から女帝が！ 孝謙天皇 遷居伝説

奈良田には、天平時代、奈良の都から第46代の女帝・孝謙天皇(奈良王様)がやってきて、8年間お住まいになられたという伝説が残っています。

奈良王様は、南アルプス市芦安の御勅使川をさかのぼり、ドノコヤ峠を越えて、奈良田にやって来ました。多くの善政で村人をお救いになられ、その数々が「奈良田の七不思議」として今なお語り継がれています。

孝謙天皇が残した 奈良田の七不思議

ここも
奈良だ

① 奈良田七段

奈良王様がお住まいになった王平から、早川の河原までは7つの段があった。それを見た奈良王様が、「奈良の都は七条なるが、この地は七段。ここも奈良だ」とおっしゃった。これで、ここが「奈良田」になった。

② 御符水 (裏地図C)

奈良王様がお掘りになった用水で、どんな干ばつや豪雨でも水量が変わらず、飲むと諸病に効能があるとされている。



③ 塩の池

塩がなくて困っていた村人を見て、奈良王様が八幡神社に祈願されたところ、お手洗い池から塩水が沸くようになり、村人は喜んで使った。



④ 洗濯池

水も凍る寒い冬、洗濯に苦労していた村人を見た奈良王様が、八幡神社に祈願したところ、温かいお湯が沸き、村人は楽になった。

⑥ 二羽鳥

カラスが多くて村人が苦しんでいたところ、奈良王様がカラスに畑の作物を食べないように言いつけた。ちゃんと言いつけを守った二羽のカラスだけ、奈良田に住むことが許された。



⑤ 染物池

奈良王様がお衣を染めた池。村人もタホ(藤の繊維で編んだ布)を染めて着ていた。



⑦ 片葉の葦 (裏地図D)

奈良王様が都にお帰りになる時、村人とともに葦も後を慕って、皆一様に北の方を向いて葉を垂れて、片葉になった。



方言、民謡、伝統行事 奈良田の民俗風習

しばしば奈良田は、異風な方言の島、古典民謡の里、民俗学の宝庫などと形容されます。全国的に見ても珍しい方言や民俗風習がたくさん残っており、「白樺会」という地元のグループがその伝承に努めています。

◆方言

奈良田の方言の特徴は、一言でいうと、関西風のアクセントでしょう。早川町内でも奈良田のみで、孝謙天皇が遷居されたのもうなずけま。その他にも、奈良田でしか使われない単語がたくさんあり、それが手ぬぐい(右)にまとめられ、販売されています。



◆民謡

奈良田では、いくつもの民謡が、大人から子どもへと伝承されてきました。なかでも「奈良田追分」「八幡」「エイサー」は、奈良田を代表する民謡として、今でも宴席など村人が集まれば歌い踊られています。



◆伝統行事

村の子どもたちが、その年に結婚したお嫁さんのお尻をたたくのが「おかたぶち」という行事。良い子供が生まれるようにとの願いが込められているといひます。

また、初めて小正月を迎える子どもに対して、男の子へはフクツチとテッポウ、女の子へはオポコ人形を贈る風習も残っています。オポコ人形は民芸品としても販売されています。



隠密村説の由来ともなった 奈良田の焼畑農業



焼畑とは、山林を焼いて畑を開墾し、地力が落ちると耕作やめ畑が山林に戻るまで放置し、再び焼いて耕作するという法です。平らな土地が少なく稲作に向かない奈良田では、幾代にもわたって焼畑が続けられてきました。しかし、山梨県よる水力発電所の建設が始まると、人々の労働形態が変わり昭和30年代に、この貴重な焼畑農耕は終わりを告げました。

奈良田では、焼畑で粟、蕎麦、小豆などを育てました。およそ3年間畑として使い、その後ハンノキを植えて山林に戻るまで放棄します。この作業を15年周期で行いました。



農作業の期間中は、山の中に「アラク小屋」という作業小屋建て、そこに寝泊まりしていました。その「アラク小屋」も含め当時の道具は、「甲州西山の焼畑農耕用具698点」として、国重要有形民俗文化財に指定され、早川町歴史民俗資料館(裏地図B)に展示されています。また、この資料館内では、貴重な畑の再現映像も見ることができます。



なお、武田氏の時代、奈良田は斐の国ただ一村「無高」(無税)でた。一般的には、焼畑をしなれないほど貧しかったため、税免除されたと考えられています。一方で、信玄公の隠密(忍者)村だたのではという説もあります。

◀ 諸役御免を許す文書

かつての集落の様子とダム移転

現在の奈良田集落は、西山発電所による西山ダム(奈良田湖建設に伴い、昭和35年(1960)に移転してきた集落です。それでの集落は、奈良田湖の底に沈み、今は見ることはできません。

かつての集落にあった民家は、天然のカラムツを割った板で根が萱かれ、そのうえに石を置いた「切妻石置板葺屋根」という形式でした。奈良田風の古民家は、奈良田の里の内に「山城屋」として復元(裏地図A)されており、集落のかつての写真は早川町歴史民俗資料館(裏地図B)で見ることができます。

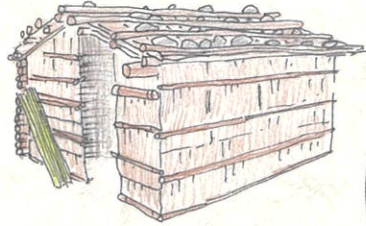


歴史民俗資料館には、焼畑関連の道具がたくさん展示されています。アラク小屋は、山に作られ、そこに寝泊まりして焼畑をしました。タホ(上)、タチツケ(下)はその当時の作業着で、作業しやすいような様々な工夫がされています。



タホ、タチツケ

奈良田の古民家を再現。石置板葺屋根が特徴。イベントや体験などのスペースとして活動中。



アラク小屋

天神様



菅原道真公が祀られています。村人がミミンコやサルボンキを作り、飾ります。

孝謙天皇遷居が伝えた良薬「ういろう(外郎)」を作っていた寺と言われていいます。この「ういろう」は、現在でも、小田原の薬屋で販売されています。本道の横には、昔使われていた立派な鬼瓦が置いてあります。



外良寺の鬼瓦

道祖神



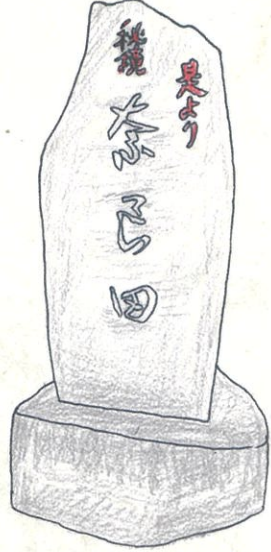
昭和7年に作られた新しい神様です。奈良田では、縁結びの神様や子どもの守り神として祀られています。

昭和30年代まで、焼畑が行われていた奈良田。国の重要有形民俗文化財に指定された、当時の民具698点を展示する資料館。焼き畑を再現した映像も見ることが出来る。
入館料 600円(写真館と共通)

ユネスコエコパーク登録10市町村の紹介。各市町村の特徴や観光どころがわかる。

築200年の古民家で、早川の地元のものを用いたスイーツや軽食を、早川町在住の作家さんの陶器や木食器で楽しめる。奈良田の歴史的書物も充実。
☎0556-20-5556

こども奈良だ！ 奈良田の宝探しマップ



奈良田トンネルの入り口にある石碑。奈良田村と湯島村の境に建てられています。

世界の山を撮り続ける山岳写真家、白瀬史朗氏の写真が展示してある。量二量ほどの大きな作品もあり、迫力満天の山の景色を楽しめる。
入館料 600円(資料館と共通)

源泉掛け流しの、つるつるした泉質のお湯が大人気！窓から奈良田湖が望める。地元の郷土料理や早川町特産のベーコンを使ったステーキベーコン丼が食べられる食堂「こんぼうす」も併設。
営業時間：9時～19時(最終受付は18:30)
※11/15～3/15は1時時間早く終了
食堂は10時～15時
定休日：水曜日、年末年始
料金：一回入浴 550円、休憩入浴 1,500円
☎0556-48-2552

こんなところにも奈良田言葉が！
食事処「こんぼうす」の暖簾



奈良田の里内にある食堂には、「こんぼうす」と書かれた真っ赤な暖簾がかかっています。「こんぼうす」とは、奈良田言葉で、「くいしんぼう」という意味です。

洗濯池があったのもうなづける
日本秘湯を守る会の提灯



オホンダレ

奈良田には、小正月にオホンダレを玄関先に飾る風習があります。カツの木の枝に顔を彫り、頭の上に団子や木を削った花を飾ります。男女一対になっていて、魔除けの意味があります。白根館、奈良田の里、鍵屋の玄関に飾ってあります。



山と密接に関わって来た証
山の神



奈良田湖にかかる吊り橋(塩見橋)のたもとに、山の神(右)が祀られています。また橋を渡ると、七不思議の一つ「片葉の葎」(左)が今でも生えています。

このガイドマップに関するお問い合わせは、鍵屋まで。
☎0556-20-5556

より詳細を知りたい方は、早川町公式ガイドブック「めたきけし」をお買い求め下さい。



孝謙天皇が祀られている神社。元々、ここに孝謙天皇の館があったと伝えられている。境内に、奈良田の七不思議の一つ「御符水」がある。

奈良田の里 温泉 (食堂「こんぼうす」)

奈良田温泉 バス停

奈良田温泉 白根館

田中冬二の詩碑
白鳳観音

奈良田で唯一の宿泊施設。100%源泉掛け流しの「七不思議の湯」が自慢。主人は猟師。秘湯の温泉宿として人気が高い。
一泊二食 10,500円～(日帰り入浴 1,000円)
☎0556-48-2522

七不思議 片葉の葎

奈良田湖(西山ダム)